

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年7月1日(水)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

“きっと強くなれるはず”…そう思います!

7月になりました。学校が再開し40日が経過しようとしています。感染リスクの高い学習活動についても実施可能となり、徐々に学校本来の姿が戻ってきました。『校長先生からの宿題』を読むと、「当たり前」のことの大切さを実感できた人が数多くいました。今回も5名の作文を紹介します。「家の手伝いをしっかり行い家族との絆を深めた」、「自分の将来の目標を見定めることができた」、「人との繋がりや助け合うことの意味を再認識できた」など、臨時休業が自分の“変化”や“転機”に繋がったと言える人達があります。そういった人達にとっては、臨時休業が決して無駄ではなかったということです。臨時休業を含めたこの状況の中の生活で“きっと強くなれるはず…”と、みんなの作文を読んで感じました。2020年の折り返し地点となる今、1ヶ月前に抱いた“志”(こころざし)を持ち続けてほしいと願います。

校長先生 からの 宿題より

■ 僕は、休業中、勉強はもちろん、テレビやSNS等でコロナウイルスの情報をよく見ていました。とても心配になる情報や少し希望の持てる情報などたくさんありました。たくさんの情報を見ていく中で学校に関する事で感じたことがあります。それは給食がとても大切だということです。親を見ていると、朝、昼、夜3食の献立を考えていてとても大変そうでした。テレビでも全国の親が頭をかかえていました。また、親だけでなく、給食の材料をつくる農家さんも大変そうでした。牛乳があまってしまったり、野菜などが行き場を失ったりして、農家さんの収入がなくなって大変というのを聞きました。これからは、給食を食べるにあたって、大変だった農家さんのことを思いながら食べたいです。また、この休業中、僕の将来なりたい職業が変わりました。僕は去年8月に郡山市中学生長崎派遣事業に参加しました。その際、長崎へ向かうために飛行機に乗りました。この時、空港で乗客を案内する「グランドスタッフ」にあこがれました。とても美しく、清楚で、本気で乗客をおもてなしする姿が見られました。僕は、それ以来「グランドスタッフ」になりたいと思っていました。しかし、休業中、僕の思いは変わりました。よくテレビを見てみると、アナウンサーが「今日の感染者は〇〇人です」と伝えている姿がかっこよく見えました。僕は小学校2年生からあるきっかけがあり、アナウンサーになりたいとも思っていたのですが、今回の休業中より強く「アナウンサー」になりたいなと思うようになりました。僕は、このように休業中に様々なことを感じたり思ったりしました。これからは、第2波にそなえて感染症対策を行っていきたいと思います。コロナウイルスが早く収束し、来年笑顔で東京オリンピックが行われることを心から願っています。(3年男子)

■ この臨時休業中にしたことは、手伝いや家族と外で動いたり、家族とのコミュニケーションを多くとったことです。いつもは家に帰ったら、勉強や自分の好きなことをやる時間などの方が多く、家族とかかわることがあまり多くありませんでした。学校の休みが始まって、僕は毎日手伝いやマッサージをしました。手伝いのなかみは、米とぎ、お風呂掃除、料理などでした。米とぎはしっかり毎日やることができました。お風呂掃除もきちんと毎日できました。料理では、手伝ったり、自分で作ったりしました。親はいつも仕事に行っていて疲れているので、マッサージをして疲れをとってあげました。親はありがとうと言ってくれて、やっぱりやってよかったと思いました。このコロナウイルスの休みがあって、いろいろな経験を積むことができたので、よかったです。(2年男子)

学びに向かう姿あり!



来週にせまってきた定期テストに向け、日々の授業の中での本気度が増してきたようです。グループワークや実験などでも学び合う姿を見る場面が多くなってきました。(手洗い、換気、マスク着用は確実に実行!)

■ この休業中、私たちの日常は大きく変わってしまった。友人と会うことができず、習い事や学校にも行けない。明確な目標を持ち、進んでいくことすら難しくなった。しかし、この状況があったからこそ、自分で考える力が大いに育ったのではないかと私は考える。何より自ら情報を得て、必要な部分をまとめ、行動に移すことができた。例えば、手洗い・うがいをより気を付けて行ったり、手作りマスクを作ったりした。また、今後の生活について改めて考える良い時間にもなった。これから、私はいつも通りの生活に戻すため、人とのつながりを大切にしたい取り組みをしていきたいと思う。(2年女子)

■ 僕は、休業期間中に「当たり前」ということについて考えました。ニュースなどで、「今までの生活は当たり前のようなことだと思っていたけど、本当は幸せなことだった」などと言っている著名人を多く見ました。僕はこの意見は正しいと思いました。けれど、それと同時にひとつ疑問になったことがあります。「当たり前」とは…。僕は、今まで何気なく学校に行き、何気なく友達と話し、何気なく授業を受け、何気なく給食を食べて、何気なく帰る。これがいつもの生活でした。しかし、休業になってからは、これら全てが奪われてしまいました。当たり前と思っていたものが、当たり前ではなくなっていました。生きていることが当たり前、でも産まれる前に死んでしまう子がいる。歩くことが当たり前、でも車いすや義足で生活している人もいます。そこで僕は、当たり前というものはこの世にはないと思いました。普段「当たり前」と言っているものは、何かの出来事で奪われたり、病気で奪われたりしてしまう。そうしたときに初めて「当たり前でなかった」と人々は痛感するのだと思います。(1年男子)

■ 「ONE TEAM」とは、ラグビーワールドカップでベスト8に進出した日本代表チームのスローガンです。新型コロナウイルスは、ワクチン開発がとても難しいと言われています。しかも、抗体を持っている人が国の60%を超えないと、感染は防止できないと言われているのに、日本にはその抗体を持っている人が2%しかいないとも言われているそうです。コロナに関して、私達はニュースやネット、人のうわさなどからしか情報を得ることができません。だから、嘘の情報が流れることもあります。突然トイレトーパーがほとんどの店から無くなることもありました。ネットの怖さを改めて知りました。そして、何より私がつらかったのは、休業中友達と会えなかったことです。分散登校のときも、運悪く私のクラスの女子は5人だけしか奇数にはいませんでした。なので、友達と会えなくてつらかったです。でも、こんなときだからこそ、助け合いが大切だと私は思っています。「ONE TEAM」は、今のこの状況を乗り切るためにすごくぴったりなスローガンだと思いました。(3年女子)

3年生が紡いだ五・七・五・七・七の言葉たち

「臨時休業」「学校再開」をテーマに3年生が国語の授業で作った歌を紹介します。3年生が紡いだ五・七・五・七・七の言葉たちには、私が出した宿題とはまた趣の違った思いや願いが見事に表現されています。

風が吹く
過ぎ行く春のぬくもりが
再び進む我を見守る

休み明け
気づかぬうちに受験生
戦いはもう始まっている

学校が無事再開し安心だ
友達に会い笑顔が戻る

休校で早く再開願っては
やっと気づいた日々の大切さ

学校がまた再開でうれしいな
まだまだいっぱい思い出づくり

休校中 日が沈むのがゆっくりで
ひたすら壁とにらめっこする

やる気せず 自分の家でゴロゴロと
聞こえてくるのは母の叱責

休校で始めはうれしはずだった
なくしてわかる日々の尊さ

学習中心の生活に!!

テスト対策は進んでいますか？
今は必然的に家庭学習時間が増えているなければならない時です。自分の趣味やゲーム等は我慢して、学習中心の生活に切り換えてください。学習に近道はありません。時間をかけ、階段を一段一段上っていくような地道な取り組みがとても大切です。



3年生なったと思えばコロナ休み
楽しみにしていた青春消える

満開に咲いた桜散る姿
今年みるのは窓の中から

3年生 実感わかず時だけが
勝手に過ぎてもう梅雨の時期

桜散る 時が過ぎるのは足ばやに
みんなの顔をふと思ひ出す

暗闇でただ一人だけ立ちすくむ
そんな日々たち早く風に乗れ

うららかな春に揺らされ夢みつつ
終わらぬ課題に目を背ける

部活動 やっと再開嬉しいが
体力衰え疲れる毎日

授業うけ 部活に参加し
塾に行く「去年と同じ」が
とても嬉しい

※「自己肯定感を育もうシリーズ No.5」は来週発行します。